

お便り

POST

◇読者から◇

日本保育学会第 67 回大会 (in 大阪) に
行ってきました。

大学内の廊下で、会場近くの路上で、最寄り駅で、大会プログラムを手にした人たちがにっこりと笑い合い「こんにちは」と声を掛け合ってすれ違って行きます。他の学会ではさほど見かけない、保育学会ならではの和やかな光景に、10 年後も 100 年後もこうした“いい気持ち”の通い合うところでありますように、と思いました。(NY)

5 月中旬だというのに、大阪は夏のように暑かったです。国際シンポジウムは今年、ニュージーランドの保育がテーマで、行政と現場からそれぞれの登壇者をお迎えしました。国による独立した教育(保育)の評価機関があり、連携して保育の質の向上に実績を上げているというのは、すごいと思いました。(J)

子育て支援の研究発表を拝見しに伺ったポスター会場では、性別も、働く保育の場の種類も異なるお知り合いの先生お二人が、どちらも父親の子育てに着目した研究を発表されました。そんなところに喜びを感じながら、子育ては、親、地域、保育現場が共に行うことだと、改めて考えさせられました。(M)

2 日目のビデオ実践研究発表に参会しました。4 歳男女児数名が、積み木が崩れたり、仲間入りでの感覚があったりしながら車を作り、何とか出発するまでの様子が映し出されました。遊びの意味とか教師のかかわりがどうとかではなく、何度も観ることで、子どもの世界を感じたステキな時間となりました。(TY)

DVD の紹介

『いつもの幼稚園に戻ること 2011年 岩手県大槌町』
企画・制作(財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
制作 幼児教育映像制作委員会

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町で、幼稚園は子どもたちを地震や津波からどのように避難させ、守ろうとしたか。怖い体験をした子どもたちはどのように元気を取り戻したか。大人も子どもも“日常”を失い、心の安定を失う中、友達がいいて、先生がいるいつもの幼稚園が、かつての暮らしを取り戻させてくれる大切な場所であることに改めて気づかされる。子どもたちの傷ついた心は、タイトルにあるように、「いつもの幼稚園」が子どもたちの元へ戻ってくることによって癒えていく(紹介パンフレットから)。

問い合わせ先：幼児教育映像制作委員会
e-mail : info@yescom.sakura.ne.jp
http://www.yescom.sakura.ne.jp

本の紹介

『家事労働ハラスメント ― 生きつらさの根にあるもの』(岩波新書) 竹信三恵子 岩波書店 2013 年

「目から鱗が落ちる」ような思いと、不思議もなく腑に落ちる感覚とを同時に抱くような本に出会うことが時折ある。これもそのような一冊である。食事の用意や片づけ、子どもや高齢者のケアといった、暮らすために誰もが必要とする家事労働を、誰が、どのように分担するかは、その社会の働き方、福祉、産業に至るまで影響を及ぼす。諸外国においては、社会の変化に見合った家事労働の新しい分担へ向け、すでにさまざまな政策がとられている一方で、日本社会では、家事労働の無視や蔑視(時に神聖視)、不公平な分配により、これを担う人々が経済力や発言力を奪われがちになり社会から不当に締め出されているという実態を指摘し、直面する困難を回避したり抜け出すための道をさぐる。(KT)